北海道看護協会十勝支部ニュース

Nursing あい

発行者　(社)北海道看護協会十勝支部
編集責任者　林　かおる

No.113
2025年7月発行

北海道看護協会　シンボルマーク

支部長挨拶

公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院　看護部長
十勝支部長　林　かおる

2025 年 2 月から北海道看護協会十勝支部長を拝命いたしました。平素より支部活動にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

役割をいただき、北海道看護協会の方針を鑑みながら、十勝支部の目標が達成されるには、どのような活動が必要なのかを改めて考える日々です。北海道看護協会の方針は５項目あり、支部目標は以下の通りです。①看護職の実践力の向上と自立的な行動を支援し、専門職業人としての役割を発揮する②地域包括ケア推進に向け、各領域で看護の役割を認識し、医療と介護の連携強化を図る③あらゆる世代の看護職が安全で健康に働き続けられる職場環境の整備、の３項目になります。

地域全体をグラウンドにして前述の目標を達成していくには、支部の事業が看護協会の中心軸をとらえ魅力的であること、効率的で継続可能なこと、参加や協力についての負担が少ないこと等について、考慮すべきであると感じています。今年度、既に展開されている事業につきましては、多くの皆様にご参加いただき、忌憚なきご意見をお聞かせいただけたらと思います。役員会の中でもまた、支部活動を客観的に見直し、改善に向けた意見交換を始めています。

看護職能団体として永続的に繁栄し、組織率を向上していくことは永遠の命題です。十勝支部目標という同じベクトルを共有して、会員の皆様と共に進みながら、拡大していきたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

2025 年度（令和７年度）
北海道看護協会方針

1，看護の質向上と役割拡大の推進

2，全世代型地域包括ケアシステムの推進

3，看護職等の確保と定着の推進

4，危機管理体制の整備

5，組織力の強化

2025 年度（令和７年度）
北海道看護協会　十勝支部目標

1，看護職の実践力の向上と自立的な行動を支援し、専門職業人としての役割を発揮する

2，地域包括ケア推進に向け、各領域で看護の役割を認識し、医療と介護の連携強化を図る

3，あらゆる世代の看護職が安全で健康に働き続けられる職場環境の整備

今年度より十勝支部事務局が下記に変更になっております

北海道看護協会　十勝支部事務局

- 所在地 -

公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院
〒 080-0014　帯広市西４条南 15 丁目 17- 3　TEL（0155）25 － 3121

第41回看護研究学会

日時／2025年2月25日㈯　時間／13：00～14：40
場所／音更町文化センター

第１群　座長　榊　有理砂（帯広厚生病院　看護科長）

第２群　座長　佐藤ちひろ（帯広第一病院　看護師長）

第41回　看護研究学会に発表者として参加して

放射線業務における被ばくに対する看護師の認識の変化
～スタッフの安全な環境をめざして～

公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院
内視鏡センター看護師　主任　菖蒲　麻由

今回「放射線における被ばくに対する看護師の認識の変化」というテーマで看護研究を行いました。

我々検査室看護師は、日常的に放射線診療に携わっていますが、研究ではスタッフの放射線業務に対する漠然とした不安が明らかになりました。その不安内容を明らかにすることで、放射線散乱領域を調査、可視化することでスタッフの放射線被ばくに対する不安の軽減について示唆を得ることができました。

現在在籍しているスタッフはもちろん、今後新しく入るスタッフが、目に見えない放射線被ばくに対する不安が解消され、患者中心の看護ケアの提供ができるよう今回の研究を繋げていきたいです。また放射線防護具の有用性が明らかになりましたが、正しく着用出来ていない現状がありました。術者や介助者の被ばく低減にもつながるので、正しい防護具の着用が定着するよう働きかけていきたいです。研究で得た知識をもとに、より質の高いケアの提供ができるよう努めていきたいです。

研究をすることで、苦労した点もありましたが、自己の看護を振り返ることができ、新たな学びを得ることができました。

今回このような発表の機会をいただき、看護研究の運営をしてくださった皆様、研究発表で多くの学びをくださった発表者の皆様に感謝申し上げます。

大腸内視鏡検査前オリエンテーションの再考
～動画を使用した結果からみえたもの～

十勝いけだ地域医療センター
外来　看護師　菅野こずえ

当院で大腸内視鏡検査を受ける患者の約40％が後期高齢者です。日帰りでの検査希望が多く、自宅で行う前処置内容を外来で説明していますが、約半数が正しく前処置が行えていませんでした。そこで昨年、高齢者の特徴をふまえた動画を作成し、検査前オリエンテーション時に取り入れてみました。その評価を行うため研究を始めました。結果は、対象者全員が自宅で正しく安全に前処置を行うことができました。

今回の研究を通して、従来使用しているパンフレットと動画の内容の不一致が明らかになり、パンフレットの内容を修正する機会となりました。また、外来業務では事務的説明になりやすい傾向がある事を再認識することもできました。更に、どのような検査も患者は不安であり、その不安や思いを表現できるよう援助をし対策する事で、説明内容がより理解される事をスタッフ間で改めて共有することができました。

この度、看護研究学会に初めて参加させていただきました。他の施設の方の様々な視点での研究発表を拝聴し、多くの学び、刺激、活力をいただきました。働く環境や対象患者は異なっても、すべては患者様のためにという看護のこころを強く感じました。私自身も、患者様一人ひとりを尊重した看護を忘れず、今後も自己研鑽に努めていきたいと思います。

新人教育支援者の心理的負担に着目して
～新人教育の統一化に必要な要素の検討～

公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院
3A病棟　看護師　加藤りおな

今回「新人教育支援者の心理的負担に着目して」というテーマで看護研究をさせていただきました。当院では教育委員会が基本となる新人看護師の年間計画を規定していますが、具体的な指導や個別の内容は、例年新人指導を担当する看護師が考え実施しています。臨床では複数の看護師が指導に関わります。情報共有に様々なツールを使用してみましたが指導内容にばらつきが生じ、統一した新人指導が困難な状況がありました。今回の研究の中で当院以外のケースを検索しましたが、指導方法や内容は大きく変わらず、新人指導のための情報共有のために工夫を重ねていることがわかりました。

研究を通して学んだことは情報共有のためのツールも重要ですが、病棟全体が新人指導に対する興味・関心を持ち、その意識を向上させることが重要であるということです。現在は病棟全体で意識の改善に向けて取り組んでいるところです。まだ課題はあるため、今後も今回の研究を活かし、病棟全体で統一した新人指導が行えるようにしていきたいと思います。

また、十勝支部の看護研究学会を通して多岐にわたる分野の発表に触れ、自分自身の学びにも繋がりました。今後もこのような機会があれば参加させていただき、多くの学びを得ることができればと思います。

今回で得た学びを今後に活かしていきたいと思います。このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

呼吸器外科側臥位手術における手術側上肢の体位固定法の検討
～術後肩部痛の緩和・減少を目指して～

独立行政法人国立病院機構帯広病院
中材・手術室　看護師　雪田　華也

今回の研究では、側臥位で手術を受けた患者が術後に肩部痛を訴える症例がたびたびあり、それに対し手術体位を見直し、先行研究を基に新たな固定方法を実施することで肩部痛の緩和がみられるかを分析しました。結果としては、有意差を見出すことはできませんでしたが、新たな固定方法の方が肩部痛の程度や発生率の減少が見込めました。

手術体位は全身麻酔の状況下である患者を看護師をはじめ、多職種が介入しながら身体を動かし、固定しています。痛みや痺れの訴えもない中で、長時間同じ体位になることを踏まえ、良肢位を保つように体位固定しており、とても高度な看護技術であると感じています。

難しいからこそ、マニュアル通りに体位固定をするということが当たり前になっており、今まではそれが本当に術後を見越した体位固定であるのかを振り返る機会がありませんでした。今回の研究を通して、自身が行った看護や看護技術を振り返るきっかけとなり、こうあるべきものとされている事に疑問を持つ大切さを学ぶことができました。また、研究をきっかけに手術室全体でもスタッフ間で術後カンファレンスを開き、看護の振り返りを行うことが定着しており、新たな取り組みに繋がっています。

今回、院外で研究発表を行うことは初めての経験でした。拙い発表ではありましたが、発表後には聴講者の方から質問をしていただき、伝えたかったことをより多く伝える事ができました。また、他発表者の研究発表を聴講させていただき、自部署でも取り入れることができる内容や、他の専門分野での取り組みを知ることができ、とても学びになりました。

このような経験を踏まえ、手術室看護師として周術期患者にどのように関わることができるか日々の看護を振り返りながら実践していきたいと思います。

今回研究発表するにあたり、論文作成に関わってくださった皆様と看護研究学会への発表の機会を与えてくださったことに感謝を申し上げます。

看護計画に対する看護師の意識調査と患者への関わり
～患者との目標共有、個別性のある看護実践～

社会医療法人博愛会開西病院
看護介護部西２病棟　看護師　根竹　明法

今回、「看護計画に対する看護師の意識調査と患者への関わり」というテーマで看護研究をさせていただきました。当病棟では標準看護計画を使用していますが、入院時に立案した看護計画が変更されず、患者家族との共有や個別性のある看護実践に不足が生じていました。看護研究を進めていく上で、看護師の看護計画に対する意識が不足していることがわかり、意識づけを行いました。その結果、看護計画に対する看護師の意識の変化がアンケート結果からもわかり、看護計画立案、修正時に患者家族と目標を設定し共有することで、患者の生活背景を反映させた個別性のある目標設定、看護ケアが行えている事を実感しています。看護研究を通して学びや感じたことを継続して実施し、入院患者に対しより質の高い看護を提供できるようスタッフ全員で精進していきたいと思います。

今回、私自身初めて看護研究学会の場で発表を行い、何度も練習していましたが、緊張が強くうまく発表できなかったことが心残りとなっています。他の施設の方々の研究発表を聴講し、私自身経験したことがない分野の研究発表もあり、良い学びになり今後の看護実践に活かしていきたいと感じています。このような発表の機会をいただき、看護研究学会の運営をしてくださった十勝支部の皆様に感謝を申し上げます。

これからのチーム医療

今回は、チーム医療を強化し患者に質の高い継続的なケアを提供するために、チーム医療改革の最前線でご活躍されている岡山副院長（兼）総看護師長にタスクシフト・シェアについて教えていただきました。

当院におけるタスクシフト・シェアについて

公立芽室病院　副院長（兼）総看護師長
岡山有美子

近年、医療現場では「タスクシフト・タスクシェア」が重要なキーワードとなっています。

医師を中心とした業務の一部を、看護師や他の専門職へ移管・分担することで、チーム全体の機能を高めようという取り組みですが、これは医師の負担軽減に関する事だけではありません。労働人口が減少する中、各施設が限られた人材で安全かつ効率的な医療を提供するために、各職種がどう協力しあい、どう役割分担するかという、組織全体での医療提供体制再構築を図ることが重要とされています。日本看護協会でも「看護の専門性の発揮に資するタスクシフト・シェアに関するガイドライン活用ガイド」を公表しており、推進の指標としていますのでご活用ください。協会ホームページでの閲覧が可能です。

当院は、経営改革の最中にあります。部門別原価管理会計システム（自律経営プロジェクト）を導入し、部門ごとの収支・労働時間・時間当たりの付加価値などを毎月算出するとともに、医療の質向上策を考え実践しています。これにより、町民の医療・介護ニーズに応える使命を果たすことと並行して、職員のやりがい向上や、協働策についても話し合う機会が増えました。「資格上、自分達にしかできないこと」「資格がない自分でもできること」「職域を広げて他部門を助けること」「患者にとっての利益とは」を合言葉に、タスクシフト・シェアを進めています。定着してきたことの一部をご紹介しますと、検査技師による内視鏡洗浄等の管理補助・入院中の認知症患者の話し相手、放射線技師による入院Ｘ線撮影患者の送迎や転床時のベッド移動応援、看護マニュアルの更新入力や文書作成、また病棟看護職員不足の日には、事務職による昼食配下膳、環境整備などがあります。

看護職は業務の特性上、他の職種に比べると時間外勤務が多いのが実情です。同じ病院の職員でありながら看護職だけが疲弊することを避けるため、病床高稼働を全職員で支えよう、患者にとっての安心・安全のために協働しようと、病院全体が前向きに取り組んでくれています。これによりお互いへのリスペクト、応援への感謝と一体感が生まれ、職場風土の改善にもつながりました。看護職にとっては、なにより「看護」に注ぐ時間が増えたことが喜びであり、患者の利益につながっていることを確信できています。

タスクシフト・シェアの推進は、組織が方針を示し多職種の合意形成を図った上で、患者にとっての利益最大、職員のやりがい向上を共通目標として、その環境を全職員で作り上げることが大切です。

当院は職員の自律した提案・実践により、この取り組みが少しずつ進んでいます。今後は更に職員の理解と協力を得ながら、各職種がその専門性と役割を発揮できる仕組みを作り、これを推進していきたいと思います。

十勝で活躍する認定看護師の活動

感染管理認定看護師として

社会医療法人北斗　北斗病院
感染対策科　吉田　　彩

新型コロナウイルス感染症がパンデミックと言われる世界的な流行となり、当法人高齢者介護施設でも大規模クラスターが発生した歴史があります。施設の新型コロナウイルス感染症クラスター状況の確認に赴いた際、その施設では入所者と職員のトイレが共用であったことを知り、まずは職員が安心して（PPE を外して）使えるトイレの確保を行いました。この状況を見た時に、感染管理の知識を有する専門スタッフがいない施設では、保健所や医療機関からゾーニング、個人防護具等の感染対策を指示されても、医療機関のような感染対策の基礎的な知識、環境が整っていないため実践が難しいことを実感しました。感染対策における基礎知識の向上が必要だと考え、新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類へ移行した頃より、不定期で当法人施設の感染対策ラウンドを開始しました。ラウンドを行っていくうち、施設職員と面識もでき情報共有をしやすくなりました。施設から相談があっても、施設の構造・入所者の状況など把握している情報が多くなり、具体的な指導をしやすくもなりました。

新興感染症を経験し、施設においても病院内においても、改めて感染対策で重要なのは手指衛生であると実感し、法人全体の手指衛生遵守率を向上させることを最優先目標として活動しています。院内では ICT リンクスタッフと共働で手指衛生ラウンドを定期的に実施しています。また、施設には抜き打ちで手指衛生状況をチェックしに訪問をしています。

また、地域の保育園、高齢者施設などの研修会を依頼されることもあります。指導というよりは不安に思っていること、質問への対応などディスカッションする機会とさせていただいてます。自施設でできることはなにか、と考えて貰えるように助言するよう心がけています。

平時の標準予防策について多くの人たちに知ってもらい、感染拡大を防ぐ行動がひとりでも多くできることが理想です。そのために、現場で直接対話をし、いつでも相談出来る窓口の存在でありたいと思っています。

認知症看護認定看護師

北海道医療団　帯広第一病院
看護部　認知症ケアチーム　大和谷奈都美

お読みいただきありがとうございます。認知症看護認定看護師（以下 DCN）の大和谷です。十勝管内には私の他 5 名の DCN の先輩が活躍されている中、一番新米の私がこのような機会をいただき恐縮しております。

【この認定看護師になれてよかった】

よく「なぜ認知症看護だったの？」「認知症、好きなの？」と聞かれます。

看護は、ある意味医師よりも非常にマルチな仕事であり、基礎看護＋配属された部署の特性を学びながら成長していくと思います。私もこれまでの経験から緩和ケアや摂食嚥下障害等も魅力的でしたが、認知症看護なら認知症の人を「まるごと全部」看護できるのではと思い選択しました。

たとえば、認知症の人が落ち着かないと連絡をいただいた時。まず伺う前にカルテから入院経過、現在の病状や検査データ、バイタルサインなど身体的所見、入院前の生活環境、日中の活動と夜間の睡眠、排泄、食事、お薬の服用状況等概ね確認し訪問します。訪問時は、連絡をいただいた看護師へ対応経過やその看護師自身のアセスメントもお聞きしますが、一番重要なのは落ち着かないご本人自身からお聞きすること。ご本人の言葉や表情、行動から不安や心配事はないか、何か辛いことはないか、この方を取り巻く「まるごと全部」の状況から、何がこの方をいつもと違う様子にさせているのか、主観的・客観的に考える。「認知症だから」とだけで終わらせることはしません。医師と薬剤の検討も行いますが、その前に看護としてできることを考える。日々 DCN としての力不足さを悩み反省しますが、対応後スタッフの安堵する表情、そして、何よりご本人に穏やかさと笑顔が戻った時、この認定になってよかったと思い、また頑張る力をいただいています。

【手のあたたかさが伝えてくれたこと】

義祖母が亡くなる少し前に面会した時のことです。義祖母は寝たきり全介助まで認知症が進行していました。帰り際、義祖母の手に触れた時、それまで話さなかった義祖母が「冷えてるね、あっためなきゃ」と、両手で私の手を包みさすってくれたのです。認知症の人は何もわからないとおっしゃる方もいます。しかし、たとえどんなに認知症が進行しても、人を想う気持ちも、そして、それを受け取る力も最期まであり続ける。

観察時、手をとり触れる際、様々な要因はあるものの、認知症の方の手は冷えていることが多いように感じます。そして、触れると「あなたの手、あったかいね」と表情が緩みお話ししてくださる方も多いです。温かさはそれだけで安心と優しさを伝える力があると思っています。

【認知症の「人」への想い】

認定看護師研修中、ある教授が「認知症を特別視せず、誰もが『あたり前』に暮らせる社会だったら」と話していました。DCN なのにと思われるかもしれませんが、私もそう思っています。認知症もたくさんある病の一つです。そして、認知症でなくとも年齢を重ねる中で、誰かのサポートを得ながら生活することもあるでしょう。それは、子どもの成長をサポートすることと同じく、ライフステージとしての『あたり前』だと思うのです。

認知症があってもなくても、その人らしく過ごす『あたり前』を支える。看護はそれができる専門職だと思います。まだまだ未熟な私ですが、私らしい DCN を探求しつつ、認知症の人やそのご家族、看護や介護にあたる皆様のお役に立てたらと思っています。

よく聞かれることに「認知症、好きなの？」も挙げました。認知症が好きなのではありません。どんな疾患であっても、看護をさせていただける事が好きです。そして、認知症がある「人」への想いが、より一層強いだけなのです。

2025年度 新役員紹介

支　部　長　林　かおる（公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院）
第一副支部長　鈴木　逸斗（幕別町役場忠類総合支所保健福祉課保健係）
第二副支部長　岡山有美子（公立芽室病院）
第一書記　加藤　広美（公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院）
第二書記　三木さおり（JA北海道厚生連　帯広厚生病院）
会　計　八幡徳美子（社会福祉法人北海道社会事業協会　帯広病院）
会　計　山室　和子（北海道立緑ヶ丘病院）

保健師職能委員会

○渡部　祥恵（池田町保健センター）
竹村　友美（更別村福祉の里総合センター保健福祉課）
家内　郁子（帯広市役所市民福祉部福祉支援室）
伊澤　知美（浦幌町役場保健福祉センター保健予防課）
杉山　絹子（広尾町健康管理センター）

助産師職能委員会

○坪井　真美（大谷短期大学　看護科）
横山　志織（医療法人社団慶愛　慶愛病院）
岩田　智子（社会福祉法人北海道社会事業協会　帯広病院）
加藤　綾華（JA北海道厚生連　帯広厚生病院）

看護師職能委員会

○棚谷　照美（社会医療法人博愛会　介護老人保健施設あかしや）
津端　明美（公益財団法人北海道医療団　音更病院）
高佐　文織（公益財団法人北海道医療団　訪問看護ステーションたなごころ）
堀　里美（医療法人徳洲会　徳洲会病院）
軍事ルミ子（医療法人社団刀圭会　訪問看護ステーション向日葵）
大川原園恵（社会医療法人博愛会　開西病院）

働き続けられる職場づくり委員会

○辻　瀬里菜（社会医療法人北斗　北斗病院）
佐藤ちひろ（公益財団法人北海道医療団　帯広第一病院）
鈴木　淳子（いとう内科クリニック）
今駒　里奈（公益財団法人北海道医療団　音更病院）
加藤　優子（医療法人社団博仁会　こころのリカバリークリニック十勝）

教育委員会

○郡司　隆行（社会医療法人北斗　十勝リハビリテーションセンター）
片山かおり（独立行政法人国立病院機構　帯広病院）
星　瑠美（十勝総合振興局　帯広保健所）
隅田　夕佳（公益財団法人北海道医療団　帯広西病院）
滝田　典子（医療法人社団あすなろ会　帯広記念病院）
辻　敦子（社会医療法人恵和会　帯広中央病院）
細田美穂子（医療法人社団刀圭会　協立病院）

広報委員会

○山内　美香（北海道立緑ヶ丘病院）
松田麻奈美（公益社団法人地域医療復興協会　十勝いけだ医療センター）
川岸夕紀子（公立芽室病院）
手塚美奈子（社会医療法人北斗　十勝リハビリテーションセンター）

推薦委員会

○林下　亜希（医療法人十勝勤労者医療協会　老人保健施設ケアセンター白樺）
小針　文子（医療法人社団翔嶺館　十勝の杜病院）
太田みゆき（清水日赤病院）

特別委員会

○岡田　隆二（JA北海道厚生連　帯広厚生病院）
森　真由美（原田眼科医院）
田中　加奈（社会福祉法人北海道社会事業協会　帯広病院）
天野　一世（社会医療法人北斗　北斗病院）
池戸すなお（社会福祉法人真宗協会　光南病院）

○印は委員長

北海道看護協会十勝支部会員数

（2025年６月22日現在）

保健師	74名	看護師	1,593名
助産師	84名	准看護師	117名

会員総数 1,868名

編集後記

盛夏の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号では、看護研究や、現場で注目されるタスクシフト・シェアに焦点を当てました。多職種連携の中で看護師が役割を柔軟に分担し、効率的かつ質の高いケア提供を目指す動きは、患者さんやスタッフにとっても大きな意義があります。また、認知症看護認定看護師による専門的ケアや、感染管理認定看護師の活動は、日々の安全で安心な医療環境づくりに欠かせません。各認定看護師の経験や知見がチーム全体のスキルアップに繋がり、看護の質向上に寄与していることを改めて感じました。

（広報委員／山内・松田・川岸・手塚）